2027年3月期　中間期
決算補足説明資料

2026年11月

東証スタンダード市場：3423

株式会社 エスイー

Engineering With You.

中東情勢の緊迫化による業績への影響について

中東情勢の緊迫化による業績への影響については現時点で合理的に見通すことは困難であるため、

業績見通しには織り込んでおりません。

今後業績予想の修正を行う必要が発生した場合には速やかに公表いたします。

中間期時点で以下の事象が生じておりますが、業績見通しの修正が必要な状況には至っておりません。

- 一部資材における価格上昇や調達リードタイム長期化

Engineering With You.

株式会社 エスイー

Copyright © SE Corporation 2026

株式会社 エスイー

■ 増収増益

前年同期比

2027年3月期　中間実績

- 業績構造　通期計画は下期偏重
- 中間実績　大型案件の寄与により前年同期比で増収増益
- 下期課題　不振分野をカバーすべく、好調分野の更なる上乗せを狙う

連結売上高

11,636 百万円

（前年同期比 +7.7%）

（進捗率 46.5%）

売上総利益

3,158 百万円

（前年同期比 +5.7%）

（進捗率 44.6%）

経常利益

134 百万円

（前年同期比 －%）

（進捗率 22.3%）

親会社株主帰属当期純利益

54 百万円

（前年同期比 －%）

（進捗率 33.9%）

Copyright © SE Corporation 2026

目次

I.　2027年3月期　中間期　連結決算実績

II. セグメントの状況

III. 通期業績見通し

Copyright © SE Corporation 2026

目次

I.　2027年3月期　中間期　連結決算実績

II.　セグメントの状況

III.　通期業績見通し

Copyright © SE Corporation 2026

中間連結決算実績（前年同期比）

株式会社 エスイー

ポイント

前年同期比～増収増益、黒字転換

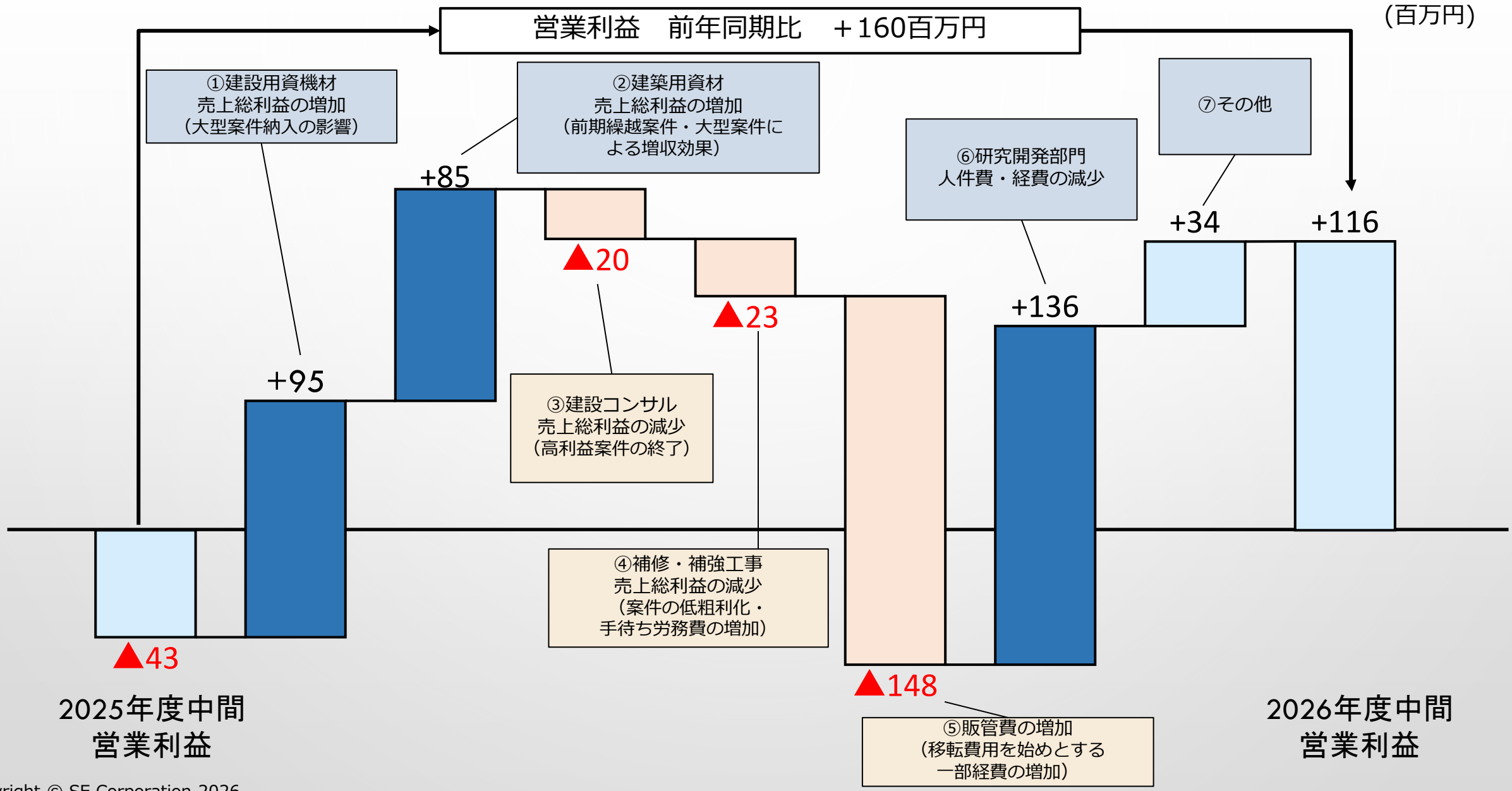
・大型案件の出荷が寄与し、売上高・売上総利益が増加。
・子会社の本社移転費用等経費増があったものの、研究開発部門の人件費・経費は大幅減少。販管費は微増。
・営業利益以下は、増収効果による利益増が大きく、大幅増、黒字転換。

連結損益計算書 (百万円)		2025年度 中間実績	2026年度 中間実績	増減	増減率	
売上高		10,801	11,636	+835	7.7%	
	建設用資機材	4,916	5,195	+279	5.7%	複数の大型案件の出荷
	建築用資材	4,561	5,126	+565	12.4%	鉄骨工事分野で繰越案件・大型案件の出荷
	建設コンサルタント	329	309	▲19	▲5.9%	
	補修・補強工事業	994	1,004	+9	1.0%	
売上総利益		2,987	3,158	+170	5.7%	増収効果による増益
	対売上高対比	(27.7%)	(27.1%)	(▲0.5%)		
販売管理費		3,031	3,041	+9	-	子会社の本社移転による一時費用の発生等
	内 研究開発部門の人件費経費	378	242	▲136	-	研究開発の進捗状況により、中間期は減少。
営業利益		▲43	116	+160	-	増収効果により、増益。赤字から脱却。
	対売上高対比	(▲0.4%)	(1.0%)	(+1.4%)		
	建設用資機材	68	111	+43	-	
	建築用資材	253	303	+49	-	
	建設コンサルタント	8	▲28	▲36	-	
	補修・補強工事業	32	▲33	▲65	-	
	調整・消去	▲407	▲236	+170	-	
経常利益		▲22	134	+156	-	増収効果により、増益。赤字から脱却。
	対売上高対比	(▲0.2%)	(1.2%)	(+1.4%)		
親会社株主に帰属する中間純利益		▲56	54	+111	-	増収効果により、増益。赤字から脱却。
	対売上高対比	(▲0.5%)	(0.5%)	(+1.0%)		

Copyright © SE Corporation 2026

中間連結決算実績（営業利益増減）

株式会社 エスイー



Copyright © SE Corporation 2026

中間連結決算実績（公表予想比）

株式会社 エスイー

ポイント 公表予想比～大口案件の出荷が早まり、不振分野をカバー

・公表予想値は、売上高は減収、粗利益率の改善により売上総利益は増益とするも、人員増強等により販管費が増加し、営業利益・経常利益は前年度並みと想定。
・中間期は、苦戦を予想していた分野が想定以上に不調となったが、ケーブル製品分野・鉄骨工事分野の大口案件の貢献により想定を上回る進捗。
・大口案件は中間期に出荷が早まったものも多く、下期は、中間期不振であった分野をカバーする必要あり、販管費も下期偏重であるため、予断を許さない状況。

(百万円)	2025年3月期	1Q 4-6月	2Q 7-9月	2Q	前年同期比（累計）	3Q	4Q	2026年3月期	1Q 4-6月	2Q 7-9月	2Q	前年同期比（累計）		3Q	4Q	2027年3月期（予想値）
連結売上高	25,887	5,161	5,640	10,801	▲1,051	▲975	▲486	25,401	5,741	5,895	11,636	+835	(+7.7%)	–	–	25,000
建設用資機材	12,500	2,227	2,688	4,916	▲811	▲845	▲480	12,019	2,386	2,809	5,195	+279	(+5.7%)	–	–	12,120
ケーブル製品分野・鉄鋼製品分野等	10,560	1,926	2,367	4,293	▲679	▲697	▲241	10,318	2,139	2,491	4,631	+337	(+7.9%)	–	–	–
コンクリート製品分野	1,939	300	321	622	▲131	▲148	▲238	1,700	246	317	564	-57	(▲9.3%)	–	–	–
建築用資材	10,371	2,268	2,292	4,561	▲400	▲390	▲511	9,860	2,668	2,458	5,126	+565	(+12.4%)	–	–	9,850
建築金物分野	6,857	1,632	1,614	3,247	▲141	▲163	▲215	6,641	1,550	1,573	3,124	-122	(▲3.8%)	–	–	–
鉄骨工事分野	3,514	635	678	1,313	▲259	▲227	▲295	3,218	1,117	884	2,001	+688	(+52.4%)	–	–	–
建設コンサルタント事業	636	207	121	329	▲2	+68	+51	687	221	88	309	-19	(▲5.9%)	–	–	698
補修補強工事業	2,379	458	536	994	+162	+192	+454	2,834	465	539	1,004	+9	(+1.0%)	–	–	2,330
営業利益	849	▲89	45	▲43	▲332	▲433	▲250	599	22	94	116	+160	(-)	–	–	603
(対売上高比)	(3.3%)	(▲1.7%)	(0.8%)	(▲0.4%)				(2.4%)	(0.4%)	(1.6%)	(1.0%)					(2.4%)

大型案件が寄与

大型案件が寄与

Copyright © SE Corporation 2026

連結貸借対照表・キャッシュフロー計算書

貸借対照表

（百万円）	2026年3月末	2026年9月末	差異
流動資産	15,820	13,365	▲2,454
現預金	5,106	3,826	▲1,279
売掛債権	8,047	6,273	▲1,774
在庫	2,384	2,922	538
固定資産	8,741	8,902	161
有形固定資産	7,626	7,624	▲2
資産合計	24,561	22,268	▲2,293
流動負債	8,936	7,476	▲1,460
仕入債務	5,261	4,484	▲776
短期有利子負債	1,851	1,476	▲374
固定負債	5,134	4,559	▲574
長期有利子負債	3,743	3,105	▲637
負債合計	14,071	12,036	▲2,035
純資産合計	10,489	10,232	▲257
負債純資産合計	24,561	22,268	▲2,293

運転資本 （百万円）	5,170	4,710	▲460
有利子負債 （百万円）	5,594	4,581	▲1,012
自己資本比率 （%）	42.6%	45.8%	+3.2
D/Eレシオ	0.53	0.45	▲0.09

キャッシュフロー計算書

（百万円）	2026年3月期 中間	2027年3月期 中間	差異
営業キャッシュフロー	524	503	▲21
営業キャッシュフロー（除く運転資金）	53	102	+48
投資キャッシュフロー	▲543	▲360	+182
フリーキャッシュフロー	▲18	143	+161
財務キャッシュフロー	▲1,150	▲1,423	▲272
現金及び現金同等物の増減	▲1,171	▲1,279	▲108
現金及び現金同等物の期末残高	3,709	3,588	▲120

ポイント

- 自己資本比率は45.8%まで上昇し、財務健全性が向上
- フリーキャッシュ・フローは約+1.4億円で黒字転換

Copyright © SE Corporation 2026

目次

I. 2027年3月期　中間期　連結決算実績

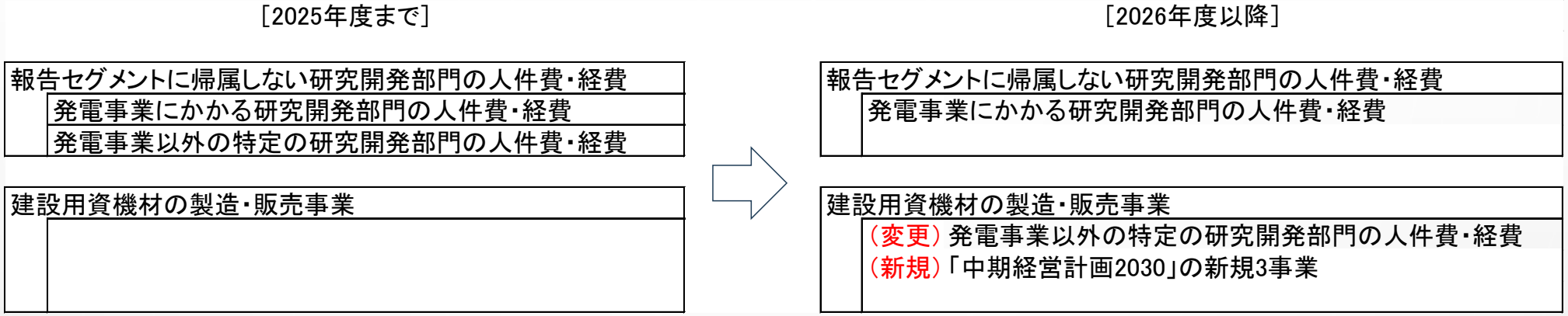
II. セグメントの状況

III. 通期業績見通し

Copyright © SE Corporation 2026

セグメント区分の内容の変更

「中期経営計画2030」の実施に当たって、2026年度より当社グループの業績管理上の区分を変更・明確化。
期首より新区分で報告しており、中間期も同様に報告セグメントの情報を以下の内容区分としております。



2026年度以降は「報告セグメントに帰属しない研究開発部門の人件費・経費」の対象部門を、発電事業にかかる研究開発部門の人件費・経費のみとし、それ以外については、「建設用資機材の製造・販売事業」にて、管理・報告していきます。

また、「中期経営計画2030」公表時には、既存の報告セグメントとは別表示で説明していた中計新規3事業については、「建設用資機材の製造・販売事業」に管理・報告していきます。

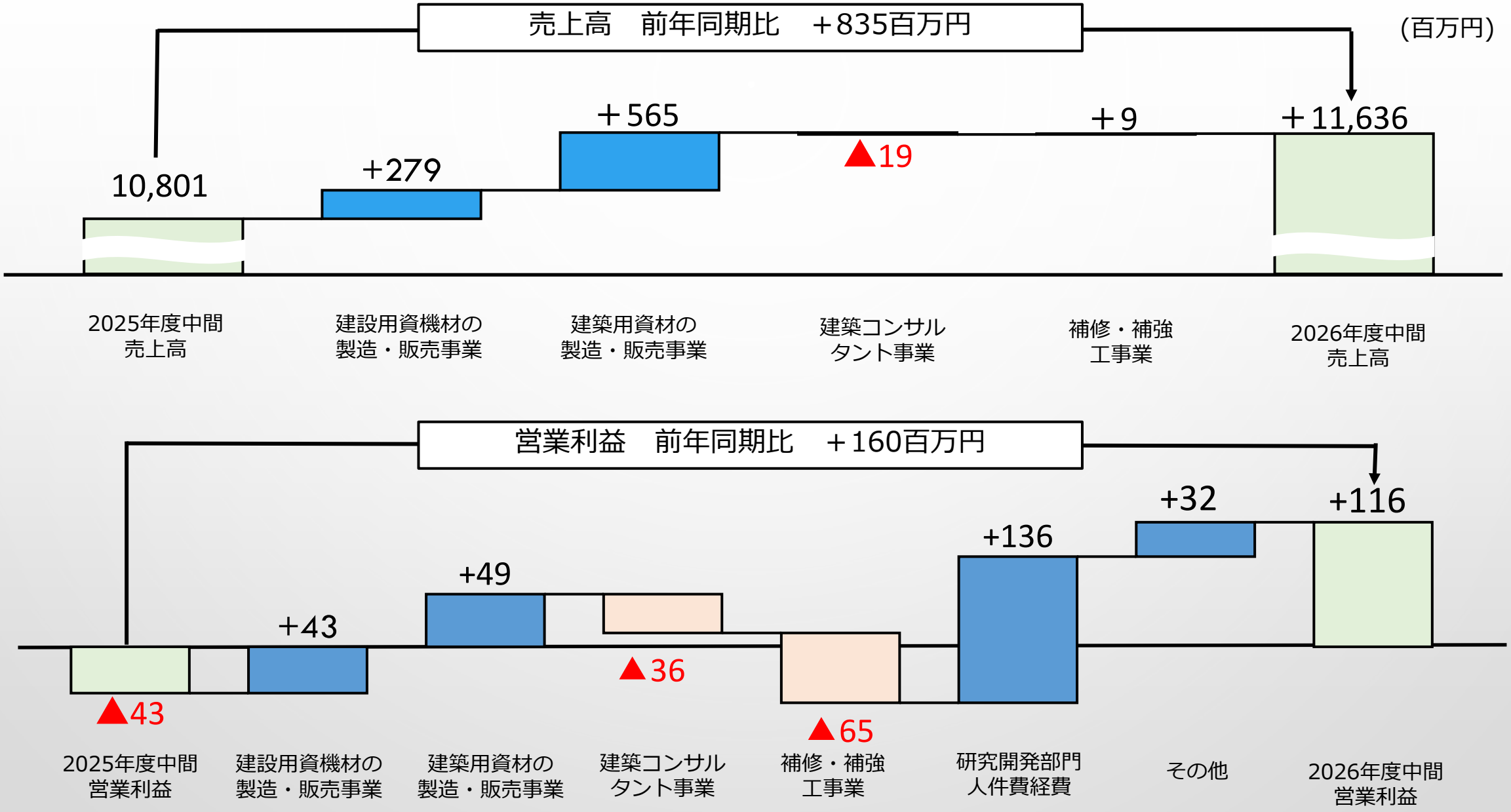
［2027年3月期中間期決算短信での変更内容］

（百万円）	2025年度中間	2026年度中間	差　異	
建設用資機材のセグメント利益	68	111	+43	← 変更後　中間期決算短信記載のセグメント情報
変更前のセグメント利益	149	203	+53	← 変更前　旧区分での中間期決算短信のセグメント情報
研究開発部門の人件費・経費	▲81	▲92	▲10	← 変更前　報告セグメントに帰属しない研究開発部門として管理していたもの

Copyright © SE Corporation 2026

セグメント別増減（前年同期比）

株式会社 エスイー



Copyright © SE Corporation 2026

建設用資機材の製造・販売事業

株式会社 エスイー

(百万円)	2025年3月期	1Q 4-6月	2Q 7-9月	2Q	前年同期比（累計）	3Q	4Q	2026年3月期	1Q 4-6月	2Q 7-9月	2Q	前年同期比（累計）		3Q	4Q	2027年3月期（予想値）
売上高	12,500	2,227	2,688	4,916	▲811	▲845	▲480	12,019	2,386	2,809	5,195	279	(+5.7%)	–	–	12,120
ケーブル製品分野・鉄鋼製品分野等	10,560	1,926	2,367	4,293	▲679	▲697	▲241	10,318	2,139	2,491	4,631	337	(+7.9%)	–	–	–
コンクリート製品分野	1,939	300	321	622	▲131	▲148	▲238	1,700	246	317	564	▲57	(▲9.3%)	–	–	–
セグメント利益	627	▲41	109	68	▲144	▲241	▲74	553	48	63	111	43	(+62.5%)	–	–	341
(対売上高比)	(5.0%)	(▲1.8%)	(4.1%)	(1.4%)				(4.6%)	(2.0%)	(2.3%)	(2.2%)					(2.8%)

〇前年同期比～増収増益

売上高　（前年同期比　+5.7%）　**［主な要因］**ケーブル製品分野において、アンカー関連が好調に推移し、国内外における大型案件が寄与

営業利益（前年同期比+62.5%）　**［主な要因］**増収による増益分が開発費・販売運賃等の経費等の増加を上回る

〇公表予想値　～　予断を許さない状況

予想値の構造　売上はほぼ前年並みの一方、新規3事業を含めた成長投資の増加に伴い減益を予想。

進捗状況　鉄鋼製品分野・コンクリート製品分野で苦戦が続く一方で、好調なケーブル製品分野がカバーしている状況。
利益についてもケーブル製品分野がけん引。
大型案件の一部は、当初想定より早い時期の納入となったもので、通期では想定通りを予想。
苦戦している分野をカバーするため、上乗せが必要な状況。

※今年度期首より、研究開発部門の人件費・経費を一部組み替えております。それに伴い2025年3月期、2026年3月期も変更しております（11頁をご参照下さい）。

Copyright © SE Corporation 2026

建築用資材の製造・販売事業

株式会社 エスイー

(百万円)	2025年3月期	2026年3月期 1Q 4-6月	2026年3月期 2Q 7-9月	2026年3月期 2Q	2026年3月期 2Q 前年同期比（累計）	2026年3月期 3Q	2026年3月期 4Q	2026年3月期	2027年3月期(予想値) 1Q 4-6月	2027年3月期(予想値) 2Q 7-9月	2027年3月期(予想値) 2Q	2027年3月期(予想値) 2Q 前年同期比（累計）		2027年3月期(予想値) 3Q	2027年3月期(予想値) 4Q	2027年3月期(予想値)
売上高	10,371	2,268	2,292	4,561	▲400	▲390	▲511	9,860	2,668	2,458	5,126	565	(+12.4%)	–	–	9,850
建築金物分野	6,857	1,632	1,614	3,247	▲141	▲163	▲215	6,641	1,550	1,573	3,124	▲122	(▲3.8%)	–	–	–
鉄骨工事分野	3,514	635	678	1,313	▲259	▲227	▲295	3,218	1,117	884	2,001	688	(+52.4%)	–	–	–
セグメント利益	541	136	116	253	▲29	▲52	▲127	414	142	160	303	49	(+19.5%)	–	–	565
(対売上高比)	(5.2%)	(6.0%)	(5.1%)	(5.6%)				(4.2%)	(5.4%)	(6.5%)	(5.9%)					(5.7%)

〇前年同期比～増収増益

売上高　（前年同期比+12.4%）　［主な要因］ 鉄骨工事分野において前年度からの繰越案件、大型案件が寄与

営業利益（前年同期比+19.5%）　［主な要因］ 建築金物分野の不振、大型案件による増収により、増益。

〇公表予想値　～　鉄骨工事分野が建築金物分野の不振をカバー、下期は建築金物分野の回復が鍵

予想値の構造　首都圏を中心とした再開発需要はあるものの、計画延期や労働時間短縮、人手不足の影響もあり売上の予想は前年並み。
地方の商圏は縮小傾向であり、案件採算確保を優先。

進捗状況　大型案件の前倒しにより、鉄骨工事分野が建築金物分野の不振をカバー。上期は計画を上回って進捗。
下期は、建築金物分野の回復を図り、鉄骨工事分野がカバーする構造の改善を図る。

Copyright © SE Corporation 2026

建設コンサルタント事業

株式会社 エスイー

(百万円)	2025年3月期	1Q 4-6月	2Q 7-9月	2Q		3Q	4Q	2026年3月期	1Q 4-6月	2Q 7-9月	2Q			3Q	4Q	2027年3月期 (予想値)
					前年同期比（累計）							前年同期比（累計）				
売上高	636	207	121	329	▲2	+68	+51	687	221	88	309	▲19	(▲5.9%)	–	–	698
セグメント利益	▲100	24	-16	8	+47	+120	+137	36	0	-28	-28	▲36	(▲439.6%)	–	–	15
(対売上高比)	(▲15.9%)	(12.0%)	(-13.6%)	(2.5%)				(5.3%)	(0.2%)	(-31.9%)	(-9.0%)					(2.3%)

〇前年同期比～減収減益

売上高　（前年同期比　▲5.9%）　［主な要因］　**期首**受注残の消化が伸び悩み小幅な減少

営業利益（前年同期比▲36百万円）　［主な要因］　減収による減益および前年度にあった高利益率の案件が終了した影響で減益

〇公表予想値　～　売上の進捗が鈍化する中、案件稼働の低下に伴い利益面も厳しい状況。
新規案件の受注と案件消化に注力し挽回を図る。

予想値の構造　JICA以外の案件拡大により、前年度並みの売上高を目指す。高利益案件の終了により減益を見込む。

進捗状況　1Qは受注残消化は順調だったものの、一部案件で工程後倒しが発生し、やや失速。

Copyright © SE Corporation 2026

補修・補強工事業

株式会社 エスイー

（百万円）	2025年3月期	1Q 4-6月	2Q 7-9月	2Q		3Q	4Q	2026年3月期	1Q 4-6月	2Q 7-9月	2Q			3Q	4Q	2027年3月期（予想値）
					前年同期比（累計）							前年同期比（累計）				
売上高	2,379	458	536	994	+162	+192	+454	2,834	465	539	1,004	9	(+1.0%)	–	–	2,330
セグメント利益	240	6	25	32	+0	▲27	+9	249	▲37	3	▲33	▲65	(▲203.1%)	–	–	195
(対売上高比)	(10.1%)	(1.4%)	(4.8%)	(3.3%)				(8.8%)	(▲8.0%)	(+0.7%)	(▲3.3%)					(8.4%)

〇前年同期比～増収減益

売上高　（前年同期比　+1.0%）　［主な要因］ **期首**受注案件や期中獲得受注の着実な成果の積上げ

営業利益（前年同期比▲65百万円）　［主な要因］ 案件の低利率化、設計・工事での稼働率低下、子会社本社移転に伴う一時費用の発生により赤字

〇公表予想値　～　受注消化は順調なるも採算性の改善には課題あり。受注残の積み上げは堅調。

予想値の構造　期中受注残の積み上げに注力、案件規模の小型化等で消化効率が下がるため、売上・利益ともに大幅な減少予想。

進捗状況　売上は好調も低利益率案件や手待ち時間の発生が利益を圧迫。原価管理と採算性向上に取り組み収益力の底上げを図る。

Copyright © SE Corporation 2026

目次

I. 2027年3月期　中間期　連結決算実績

II. セグメントの状況

III. 通期業績見通し

Copyright © SE Corporation 2026

通期業績見通し

株式会社 エスイー

ポイント

現時点で通期の業績予想は変更せず、据え置く

・中間期が前年同期比を上回ったのは、大型案件の寄与が大きく、それ自体は通期では想定内。
・一方で、期初想定より厳しい分野もあり、予断を許さない状況。
（遅延なく対応施策を検討・実施を進めていく）

（百万円）	2027年3月期（予想値）
連結売上高	25,000
売上総利益	7,088
営業利益	603
経常利益	600
親会社株主に帰属する当期純利益	159

業績予想作成時での想定（前年度比での想定　＋：プラス要因、△：マイナス要因）			中間期終了時点での今後の見込み（　－：ほぼ想定通り　△：当初想定より厳しい）	
影響	要因	セグメント・分野	見通し	状況
＋	大型案件	ケーブル製品分野	－	一部案件が前倒し、通期での影響はない
		鉄骨工事分野	－	通期では想定通り
＋	価格転嫁の進展	建設用資機材 建築用資材	－	ほぼ想定通り （一部で売上確保のための価格競争激化の兆し）
△	地方商圏の縮小	コンクリート製品分野	△	当初想定より厳しい
		建築金物分野	△	当初想定より厳しい
		鉄骨工事分野	－	ほぼ想定通り
△	工期平準化（働き方改革・職人不足等構造変化）	建設用資機材	－	ほぼ想定通り
		建築金物分野	△	当初想定より厳しい
△	成長分野への人員増強等の先行投資	建設用資機材	－	ほぼ想定通り
△	原材料価格・エネルギー価格の上昇	建設用資機材 建築用資材	－	ほぼ想定通り （但し、中東情勢による悪化は含めていない）

Copyright © SE Corporation 2026

今後の情報につきましては、
株式会社エスイー　ホームページ　IR情報　https://www.se-corp.com/ja/ir.html
をご覧ください。

将来見通しや分析に関する記述についての詳細〔ご参考〕

当資料及び説明会は、あくまで株式会社エスイーをより深く理解していただくためのものであり、当資料、説明会の内容及び画面に記載されたいかなる情報（リンク先の情報も含む）も、当社株式の購入や売却を勧誘するものではなく、またこれらに関する投資アドバイス目的で作成されたものでもありません。

当資料、説明会の内容や画面に記載されている（リンク先に記載されているものを含む）当社の分析、業績見通し、計画、戦略などのうち、歴史的事実でないものは、現時点で入手可能な情報に基づく見解や将来の業績に関係する見通しであります。これらは現時点で入手可能な情報に基づき株式会社エスイーの経営者が判断したものであり、リスクや不確実性を含んでいます。従いまして、これらの分析・業績見通しのみに依拠して投資判断を下すことは控えるようお願いいたします。

Engineering With You.

株式会社 エスイー

Copyright © SE Corporation 2026